

<巻頭言>

新興学術雑誌としてのねらいと実践

—接触、そして発動—

Aims and Practices as an Emerging Academic Journal:

"A Contact" to "Be Invoked"

木下翔太郎^{*†}

Shotaro Kinoshita

電子学術雑誌『地球・宇宙・未来』（英名、「*Globe, Universe, Next future, Discussions And Mentions*」）を創刊してから1年が経った。多くの方々にご協力をいただき、第1巻第1号（2024年7月）では7編、第1巻第2号（2025年1月）では17編の記事を掲載することができた。そして、今号では28編、200ページを超える寄稿をいただいた。執筆者の皆様にこの場をお借りして改めて心からの感謝を申し上げる。

創刊号でも紹介した通り、本誌の創刊は、筆者らが参加するオープンイノベーションプロジェクトにおける成果の発表先の検討から始まっている¹。しかし、単に内輪の成果発表の場とするために創刊したわけではなく、学術と社会の垣根を低くすることを目標とし、既存の学術雑誌とは異なる発信の場をつくることを意識してきた。具体的には、キャラクターIPの活用、雑誌タイトルや表紙の工夫、無料で誰でも閲覧が可能なオープンアクセス形式、学術的なバックグラウンドや実践知をもつ著名な方々からの寄稿を増やすなどの取り組みを行い、学術雑誌に馴染みなかった人々にも関心をもってもらえるようなコンテンツとなることを目指している。

さらに、本誌は創刊の経緯から、科学と社会との関係、科学コミュニケーションなどの分野が基盤となっているものの、どのような学問分野からの投稿も受け入れるオールジャンルの雑誌であることに加え、原則として投稿資格が不要となっている。これにより、既存の学術雑誌とマッチしない学際的なテーマにとりくむ研究者・企業などの成果発表の場となることや、大学院生や若手研究者など、学術雑誌への投稿経験を積みたい人々にとっての活動紹介の場となることも想定している。特に、本誌はJ-STAGE 登載によって過去記事の適切なアーカイブ化が期待できることに加え、DOI が付与されていることで Google Scholar や CiNii などの各種学術データベース上での検索対象にもなることから、学術的な発信の場として一定程度の信頼が担保されているといえる。

こうした本誌の取り組みについて様々な形でポジティブな評価をいただく中で、英文学術雑誌 *Science Editing* 誌に、創刊の経緯や雑誌の特徴について査読付きエッセイを発表させていただく機会もいただいた²。今後も継続して発行・改良を行い、学術界と社会のコミュニケーションの活性化に貢献できるよう努力していきたい。

^{*} 慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座

[†] 東京大学大学院学際情報学府

文献

1. 木下翔太郎. (2024). キャラクター IP を活用したオープンアクセスジャーナル創刊による
学術コミュニケーション促進の試み. *地球・宇宙・未来*, 1(1), 3-4.
2. Shotaro Kinoshita. (2025). *Globe, Universe, Next Future, Discussions and Mentions*: a Japanese-
language academic journal for societal impact. *Science Editing*, 1-3. <https://doi.org/10.6087/kcse.369>
[Epub ahead of print]